

アルス国際製靴学校研修体験記

(令和元年8月27日～11月15日)

有限会社江の島屋商店 高橋 玲 至
株式会社ロマン 色川 響 子

I. 学校について

今回受講したパターンメイキングクラスは1クラス計18人でした。授業は、イタリア語と英語の両方で行われました。主に2名のイタリア人の先生が教えてくれました。

学校は、私達が生活するアパートの地下にありました。授業は、午前9時から13時までとランチタイムを挟んで14時から17時まででした。午前と午後に1回ずつコーヒブレイクもありました。平日の月曜か

ら金曜週5日間、合計12週間行われました。その中で代表的なパンプス、ダービー、オックスフォード、モカ、サンダル、Tストラップ、バックストラップ、ブーツといった靴のデザインの型紙技術を学びました。

実技の授業は、デザイン画を元にバランスを読み取り1デザインを半日から1日か



授業中(座学)



底付けコース見学



タンナー見学1



タンナー見学2

けて工程毎に先生の机に集まり説明と実演をしてもらい各自の自席で作業を行うスタイルでした。作業スピードの速い生徒は類似したデザイン画を受け取り、応用課題に取り組みました。

アルスでは機材メーカーと繋がりがあるためか、ニットアッパーを作るための機械や中敷きをシール状にする機械、圧着機、ボトムを縫うためのミシンなど、最新の機材が取り入れられており、先生方はそれを使いこなしていました。

クラスメイトには、パターン経験が無い人が多く、実演や説明時も多くメモを取り質問も意欲的に行っていました。パターン経験のある私達は、しばしばクラスメイトに教えることもありました。

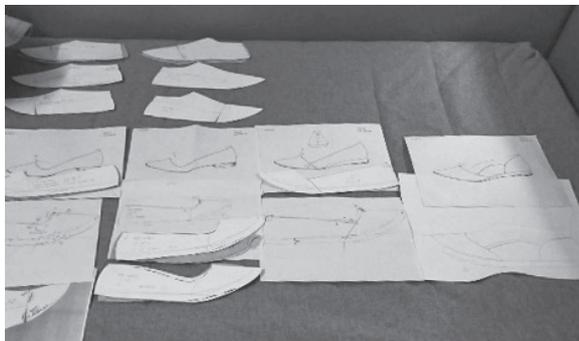
新しい素材や技術に関する講義もあり、靴の伝統的な面とファッション性の高い面のどちらも重要視した授業内容で、アルスの生徒達は常に新しい知識をアップデート

した状態で靴業界に入ることができました。

また、座学の授業もありました。足について、革や底材関係といった材料について、靴が出来るまでの説明、国別のサイズについて、靴についての基礎の復習になりました。

さらに、外部の見学もありました。タンナー、機械工場、靴工場、LINEAPELLE、MICAMと様々な貴重な経験が出来ました。外部の見学に行く際、バッグコースの生徒とも一緒に回る時もありました。

クラスメイトは、イタリア、ロシア、エジプト、タイ、インド、スペイン、アメリカと様々な国の方がいました。一人ひとりが個性溢れる面白いクラスメイトでした。



型紙—原型からのデザイン展開



集合写真



MICAMのパフレットと
LINEAPELLEで見つけた革



卒業製作 講評会 足入れ レディース

靴以外でも様々な国の文化に触れる機会ができ、とても充実しました。本当に皆が優しく授業以外のプライベートでも大変お世話になりました。

アルスで習得したパターンは、日本のものと近いところもありましたが大きな違いとして、日本では木型にデザインを描いてからテープに写して平面化してから展開するのに対して、アルスでは始めに平面化した木型の原型を使用して各デザインに決められたルールによって平面にデザインを描く方法でした。今後、アルスのパターンを検証し、良いところは会社で参考に取り入れていきたいと思います。

卒業製作は各自が、自由にデザイン、材料選び、パターン作成を先生の助けを借りて行います。パターンができると仮アップを甲革のみで不織布を使用して作成し仮つり込みを行い、支障がなければ本番に進みます。製甲と底付けと仕上げには各担当の職人がいますので各工程で作成する際



卒業製作 講評会 足入れ メンズ

は、かたわらで打合せしながら製作していきます。完成すると足入れ代表の人に履いてもらい講評会が行われました。

卒業試験は、3日間に渡って行われました。筆記テスト50問とパターン作成及びブルオーバー作成テスト、3人1組の面接がありました。どの試験も言葉の壁がありましたので苦労しました。

Ⅱ. イタリアでの生活について

部屋の設備はキッチンやバスルームなどある程度揃えられており、近所にはスーパーやレストランもあったので問題なく生活ができました。アパートの管理人の手違いにより私達は、滞在中何度か部屋を移動することや、住める部屋が無くなるなど予想もしないトラブルも起こりましたが、それ以外は学校直結のアパートだったので、慣れない海外生活でも安心して時間に余裕のある生活ができました。言葉の壁が



ファッションウィーク中のミラノ

あり、コミュニケーションがうまく取れずトラブルが防げなかったことについては、今回反省するべき点でした。

治安の悪い町だという認識があったので、はじめはあまり外に出ないようにしていたのですが、よほど油断していない限りは安全だということがわかり、町へ出るようになりました。

私達のアパートは中心地に行くにも都合な場所だったので、時間があれば市場調査に出かけました。日本とは違い、都会にも関わらず町には個人経営の路面店が多い印象でした。特に靴は紳士、婦人という分類以外にも、希少サイズに特化したお店や、オーダー靴、子供靴といった、より専門的に商品を揃えているお店が多く驚きました。入っていく人も皆、昔から土地に根付いて営業しているお店に信頼を寄せ、気軽

に相談して購入しているようでした。こういった販売スタイルで経営が成り立っているのも、靴に対する価値観が日本とヨーロッパとは大きく違う為だと思います。靴が好きでこの業界で働いている人間からすると、このような販売者と消費者の関係性はとても羨ましく思えました。

滞在中にはちょうどミラノファッションウィークというイベントがあり、その週は毎日どこかでファッションショーやショップでのイベントが催され、モデルやデザイナーなどのファッション感度の高い人が各国から集まっていました。ミラノでは、ほかにもブックウィークやワインウィークなど町を挙げてのイベントが頻繁に開催されており、充実した日々を楽しく過ごすのが上手な国民性だなと思いました。イタリア人の友達はイタリアも景気が悪いと言っていました。こういった催しにより、自然と人々の購買意欲を上げて消費に繋げることができているように見えました。

クラスメイトには家族がシューズメーカーを営んでいる方や、すでに靴のデザイナーとして活躍している方などがいて、今後お互いに情報交換していけるような繋がりができてとても嬉しかったです。そして、靴に対してとても希望を持っており、意欲的に靴に向き合っている仲間に出会い刺激を受けたことは、何よりも私達の財産になりました。

私達は靴メーカーに入って数年経ちますが、日本の靴業界は売り手も買い手もとても保守的で消極的だと感じています。

靴に対する価値観の違いを根本的に変えることは難しいですが、今回の留学に参加させて頂いたからには、日本の靴業界を前向きに変えるヒントを見出すことが、今後の私達の課題だと思っています。



平和の門（アルコ デッラ パーチェ）

今回の3ヵ月のアルス研修は、当初は不安と緊張でいっぱいでしたが、イタリアでできた仲間達に支えられ、仲間とともに授業にいそしみ、パターンメイキングだけでなく様々な人々と触れ合うことで、世界について、宗教について、文化について、私達の人生において、貴重な経験になりました。

これらの経験を活かし、なかなか厳しい靴業界ではありますが日々研鑽を積み精進していきたいと思えます。

最後に、3ヵ月間のアルス研修という貴重な研修機会を頂いた東京都産業労働局、東都製靴工業協同組合の皆様、派遣研修に携わった方々、そしてイタリアで出会ったすべての方々に感謝御礼申し上げます。



ミラノのショッピング・アーケード「ヴィットーリオ・エマヌエレ2世のガッレリア（Galleria Vittorio Emanuele II）」



ミラノのドウオモ